

日薬連発第 648 号
2019 年 8 月 21 日

加盟団体 殿

日本製薬団体連合会

「医療リアルワールドデータ活用人材育成事業」
キックオフシンポジウムについて

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

標記シンポジウムについて、東京大学医学部附属病院企画情報運営部部長の
大江和彦教授よりご案内をいただきました。

つきましては、本件につき貴会会員に周知徹底いただきたく、ご配慮の程よ
ろしくお願い申し上げます。

謹白

「医療リアルワールドデータ活用人材育成事業」 キックオフシンポジウムの案内

このたび文部科学省医療データ人材育成拠点形成事業において「医療リアルワールドデータ活用人材育成事業」(代表校:東京大学)と「関西広域 医療データ人材教育拠点形成事業」(代表校:京都大学)とが採択されました。

東京大学拠点では、大規模な医療リアルワールドデータについて、具体的な医療課題解決と知見創成に必要なそのデータ処理技術を修得し、それを自ら実践でき指導者層にもなりうる人材育成を目的として、2020年度から実践的技術と知識を修得できる教育コースを設置する準備を進めており、実施担当を東大病院企画情報運営部が担当しております。

本事業の開始に当たり、別紙の要領でキックオフシンポジウムを開催いたしますので、御案内させていただきます。

来年度からの受講を検討する方々始め多数の御参加を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。別紙と合わせ、本シンポジウムの詳細や参加申込みは本事業ホームページをご覧ください。 <https://www.med-rwd.jp/>

なお、京都大学拠点でも10月11日に大阪でシンポジウムが予定されています。

2019年8月20日

東京大学医学部附属病院企画情報運営部
部長 大江和彦 (本事業実施担当代表者)
本事業連絡先: med-rwd@adm.h.u-tokyo.ac.jp
<https://www.med-rwd.jp/>

文部科学省医療データ人材育成拠点形成事業
「医療リアルワールドデータ活用人材育成事業」キックオフシンポジウム
<https://www.med-rwd.jp/>

日時:9月9日(月)13時30分—15時30分

場所:東京大学医学部教育研究棟 14階 鉄門記念講堂

定員:200名程度・事前先着申込み順・無料

主催:事業代表校:東京大学(大学院医学系研究科・医学部附属病院)

連携大学:筑波大学・富山大学・自治医科大学

プログラム概要:

- 1 開会挨拶 東京大学医学部 医学系研究科長 斎藤延人
- 2 挨拶 文部科学省 高等教育局医学教育課長 丸山浩
- 3 挨拶 厚生労働省 政策統括官付情報化担当参事官室政策企画官
笹子宗一郎
- 4 特別講演 自治医科大学学長 東京大学名誉教授 永井良三
- 5 医療リアルワールドデータ活用人材育成事業について
東京大学大学院医学系研究科 大江和彦
- 6 連携大学からの講演
筑波大学医学医療系 大原信
富山大学第一内科兼臨床研究管理センター 戸邊一之
自治医科大学 医療情報部 興梠貴英
- 7 講演 京都大学拠点の紹介
京都大学大学院医学研究科 医療情報学 黒田知宏
- 8 質疑
- 9 閉会挨拶

参加申込み: HP からの参加登録のみとなっています。 <https://www.med-rwd.jp/>

事業参考 文部科学省 HP:

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/1417693.htm

医療リアルワールドデータ活用人材育成事業

— 代表校：東京大学 連携校：筑波大学、富山大学、自治医科大学（協力機関：国際医療福祉大学） —

我が国の課題

医療現場から創出される大規模医療リアルワールドデータを適切に解析できる人材の不足

問題点

標準化されていない項目値、各種欠損値の存在、実臨床との間に存在するデータの歪みのために、そのままでは解析できない

本事業で育成する人材像

- 医療大規模データの特性・意義やバイアスを理解
- データ標準化・クレンジングによりデータベース再編成ができる
- 具体的な医療課題解決と知見創成に必要なデータ処理技術を習得
- 自らデータ基盤の構築ができ、指導者層になりうる

医療大規模データ活用人材育成の拠点構築

- ・大規模生データ実習と実地研修：各大学等が有する現場データを使用
- ・ケーススタディ：プロジェクトを指導的にマネジメントする能力を身につける
- ・領域専門知識の習得：医療情報学、生物統計学、臨床疫学
個人情報保護や倫理・法制度に関する専門知識

①医療・保健の現場からデータ抽出

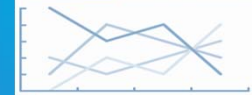
そのままでは解析できない生データ

	Hb	CRP
患者A	16.7	+++
患者B	8600	13.5
患者C		15.5
患者D	5800	凝固
患者E	検査不能	0.54

一般コース	集中コース
2年	1年
講義3科目	講義3科目
実践8科目	実践4科目
実地2科目	実地1科目

⑥患者の元へ還元

新たな医療・健康エビデンスの創出



②データの特性・意義偏りの把握

③データ標準化・整形・クレンジングによるデータベース構築

大規模医療データ解析の一連の工程を自ら技術を持って実践でき、**医療データ基盤を構築でき**
指導的に課題解決できる人材を育成

⑤課題解決を見据えた知見創出

④10万件を超える大規模なデータの適切な解析処理

対象とする受講者 一般10名、集中8名×4年 計72名

医師・看護師を始めとする医療免許保有者
医療機関外で医療関連データ解析の経験を有する者

成果普及へ

教育内容について教科書を出版・オンライン教材として公開
大規模生データを適切に匿名加工処理し、教育リソースとして公開する